

アクセシビリティ詳細検討シート（素案）

対象ホームページ：_____

確定日：_____

検討メンバー：_____

0 - a 規格と言語の選択

- | | |
|-----------------------------|-------|
| < 必須 > 使用するHTMLのバージョンを明確にする | → 検討1 |
| < 必須 > 使用する言語を明確にする | → 検討2 |

検討1 採用するHTMLの規格を決めましょう。

HTMLにはいくつかのバージョンがあり、各HTMLファイルでは必ずどのバージョンの規格に従うかを明示しなくてはなりません。

このサイトでは、HTMLのどのバージョンを採用するかを検討し、選択してください。

- | | | |
|----|--|---------|
| 推奨 | ☐ HTML4.01 Transitional | (簡単な説明) |
| | ☐ HTML4.01 Strict | (簡単な説明) |
| 推奨 | ☐ XHTML1.0 Transitional | (簡単な説明) |
| | ☐ XHTML1.0 Strict | (簡単な説明) |
| | ☐ XHTML1.1 | (簡単な説明) |

検討2 標準となる言語を決めましょう。

HTMLでは、各ページに書く文書の言語を明示することになっています。多くの場合、言語は日本語だと思いますが、外国語ページを作成する場合には、その言語を指定しなくてはなりません。

このサイトでは、どの言語で情報提供を行なうかを検討し、選択してください。

- | | | |
|----|---|--|
| 必須 | ☐ 日本語 | |
| | ☐ 英語 | |
| | ☐ 中国語 | |
| | ☐ 韓国語 | |
| | ☐ スペイン語 | |
| | ☐ ポルトガル語 | |
| | ☐ その他の言語(具体的に：_____) | |

1 - a 基本メニューの提供

各ページに、サイト全体で共通の基本メニューを表示する → 検討1, 2
各コーナー内のページでは、それぞれのコーナーの内容に合わせたメニューを表示する → 検討3, 4

検討1 一貫性に配慮して、どのような作りの基本メニューとすることを検討しましょう。

共通基本メニューの表示方法や構成は、どのページでも同じであることが必要です。共通基本メニューの基本構造を検討してください。

- 必須 ☐ どのページでも同じ位置に表示する
(表示位置を記入:)
- 必須 ☐ 基本メニュー項目は常に同じ構成、並びで表示する
(項目構成を記入:)

検討2 共通基本メニューの表示方法とアクセシビリティを検討しましょう。

共通基本メニューは極めて重要な操作部分ですので、アクセシビリティの確保が必須です。採用する表示方法によってアクセシビリティのポイントが異なります。アクセシビリティに配慮して、どのような表示方法とすることを検討し選択してください。

- ☐ リンクつきテキストで各項目を表現する
→ 項目同士に適切な間隔を空けること
- ☐ リンクつき画像で各項目を表現する
→ 各項目の画像に、項目名を表す代替テキストをつけること
- ☐ JavaScriptを使って、動きのあるメニューとする
→ キーボードのTabキーで全ての項目が選択できること
- ☐ その他の表示方法で作る(表示位置:)

検討3 一貫性に配慮して、どのような作りのコーナー別メニューとすることを検討しましょう。

コーナー別基本メニューの表示方法や構成は、どのページでも同じであることが必要です。コーナー別基本メニューの基本構造を検討してください。

- 必須 ☐ どのページでも同じ位置に表示する
(表示位置を記入:)
- 必須 ☐ メニュー項目は、同じコーナーの中では常に同じ構成、並びで表示する
(項目構成を記入:)

検討4 コーナー別基本メニューの表示方法とアクセシビリティを検討しましょう。

コーナー別基本メニューは極めて重要な操作部分ですので、アクセシビリティの確保が必須ですが、採用する表示方法によってアクセシビリティのポイントが異なります。アクセシビリティに配慮して、どのような表示方法とすることを検討し選択してください。

- ☐ リンクつきテキストで各項目を表現する
→ 項目同士に適切な間隔を空けること
- ☐ リンクつき画像で各項目を表現する
→ 各項目の画像に、項目名を表す代替テキストをつけること
- ☐ JavaScriptを使って、動きのあるメニューとする
→ キーボードのTabキーで全ての項目が選択できること
- ☐ 共通メニューと一体化したつくりにする(共通メニューの中で、表示しているコーナーだけサブメニューを表示するなど)
→ 共通基本メニューと合わせてアクセシビリティが確保されている

1 - b ナビゲーションスキップの提供

基本メニューを設ける場合、メニューの読み飛ばしリンクなど、視覚障害者に配慮したつくりにする

検討1 基本メニューの読み飛ばし(ナビゲーションスキップ)にはいくつかの考え方があります。どのような方法で実現するか検討しましょう。

今回採用するナビゲーションスキップの実現方法をひとつ選択してください。

- 基本メニューの最初に、本文の最初へジャンプするページ内リンクを用意する

最もよく見られるナビゲーションスキップの方法です。基本メニューの最初の項目の前に目に見えない小さな画像を置き、そのページの本文の最初(または本文の最初の見出し)へページ内リンクを張ります。また、代替テキストには「本文へジャンプ」など、ナビゲーションスキップであることが分かる文章を入れておきます。

参考になるソリューションリスト項目:

- 基本メニューの最初に、Hタグを使った見出しを用意し、本文の見出しまで読み飛ばせるようにする

基本メニューの最初に、「基本メニュー」、「グローバルナビゲーション」などの表題をつけ、Hタグで見出しに指定します。本文でも同様に大見出し、中見出しなどをHタグで指定します。このようにすると、「見出し読み」ができる音声読み上げソフトでは基本メニュー部分を飛ばすことができます。ただし、この方式では飛ばし読みできない音声読み上げソフトもあります。

参考になるソリューションリスト項目:

- 基本メニューをHTMLの最後の方に記述し、読み上げソフトでは最後に読み上げられるようにする

CSSでレイアウトを定めるようにすれば、HTMLでは一番最後の方に基本メニュー部分を記述しても、画面上では上や左に配置することができます。こうすると、音声読み上げソフトでもメニューが最後に読まれるので、メニュー部分が利用の邪魔になりません。

参考になるソリューションリスト項目:

- その他の方法で実現する

具体的な実現方法:

検討2 どこからどこへ読み飛ばしできるようにするかを検討しましょう。

ナビゲーションスキップでの読み飛ばし先について、どれかひとつ選択してください。

- 基本メニュー全体を読み飛ばすようにする
- 共通基本メニュー(グローバルナビゲーション)→サイト基本メニュー→本文 と順にジャンプするようにする
- 基本メニューの中で、いくつかの項目を選んでジャンプするようにする (たとえばA,B,C,D,Eとメニュー項目がある場合にA→C→Eとジャンプするようにする)
- その他の読み飛ばし方 ()

2 - a 現在位置情報の提供

「パンくずリスト」を提供する

検討1 パンくずリストの基本的な形を検討しましょう。

パンくずリストとは、次の例のように、トップページから現在の表示ページまでの階層構造を示して、今どこにいるかが分かるようにするものです。横方向に並べて表示する例が多いですが、縦に並べるやり方もあります。

このサイトでは、どのような形にするかを選択してください。

- ☐ 横方向に階層を並べて表示する

例) トップページ > > 子育て支援 > > 保育園情報 > > 入園の手続き
 参考になるソリューションリスト項目:

- ☐ 縦方向に階層を並べて表示する

1
つ
選
択

例) トップページ
 └ 子育て支援
 └ 保育園情報
 └ 入園の手続き

参考になるソリューションリスト項目:

- ☐ その他の方法で実現する

具体的に:

検討2 パンくずリスト自体のアクセシビリティを検討しましょう。

項目同士の間には矢印を意味する文字または画像を入れます。どのようにするか、音声読み上げにも配慮して決める必要があります。

項目間のつなぎ方をどのようにするかを1つ選択してください。

1
つ
選
択

- ☐ 「 > 」を項目の間に入れる (音声読み上げでは「より大」などと読み上げます)
☐ 「 └ 」を項目の間に入れる (縦並びの場合。音声読み上げでは「けいせん」などと読み上げます)
☐ 「 / 」を項目の間に入れる (音声読み上げでは「スラッシュ」などと読み上げます)
☐ 矢印を示す画像を項目の間に表示して、「の」「の中の」などとAltを指定する
☐ その他の方法 (具体的に:)

検討1 現在位置を示す方法を選択しましょう。

☐ 各コーナーやページに分かりやすい識別番号をつけて表示する

□ 共通メニュー、コーナー基本メニューの表示の変化で現在位置が分かるようにする

☐ その他の方法で実現する

検討2 選択した表示方法でのアクセシビリティを検討しましょう

ページ番号で示す場合:

- メニューの色やフォントで示す場合

- 実施する配慮を以下に書いてください:

3 - a テーブルレイアウトの検討

テーブルレイアウトを使うが、視覚障害者に配慮した作りにする

検討1 テーブルレイアウトでの読み上げ順序を理解しましょう

HTMLのtable要素を使ったページレイアウトは広く利用されていますが、視覚障害者用の音声読み上げソフトでの読み上げ順序に配慮したつくりにしないと、音声読み上げでは意味が通らなくなってしまうことがあります。

まず、どのような順序で読み上げが行われるかを十分に理解してください。

例1) 単純なレイアウトの場合: 左上の領域から、右側の領域へと読み上げていきます。

例2) 複雑なレイアウトの場合: セル結合を使った複雑なレイアウトでは、読み上げ順序も複雑になります。基本メニューをテーブルレイアウトで配置する場合などは、読み上げ順序によく注意してください。

左上の角が、より上にあるセルから順に、左から右へ読み上げられます。

参考になるソリューションリスト項目:

検討2 作成するページのレイアウト案を作り、読み上げ順序を確認しましょう。

検討1の例にならって、作成するページのレイアウト図を作り、音声読み上げでの読み上げ順に番号を振ってみてください。(左上のセルから右側へ)

読み上げ順が想定と違っている場合は、ページレイアウトの変更を検討してください。

4 - a フレーム利用の検討

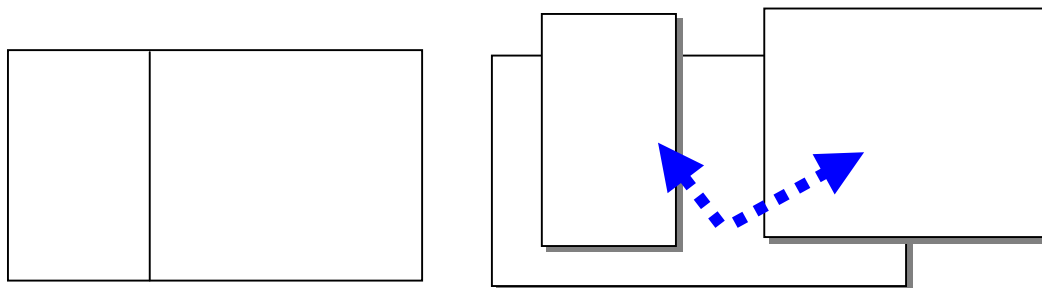
フレームを使用するが、視覚障害者が利用できるよう配慮する

検討1 フレームを使用した場合に発生する問題を理解しましょう

フレームを使ったページは、全盲の利用者には使いにくく、フレームセットで適切な配慮がなされないと利用できないページになります。

まず、音声読み上げソフトでフレーム使用ページがどのように認識されるかを理解してください。

例1) 通常のブラウザでは1ページに見えるものが、音声読み上げソフト等では「フレームセット」も含め、3つ以上の別々のページとして扱われます。



検討2 フレーム使用時に必要な配慮を理解しましょう

例2) フレームとなる各ページ(HTML)のタイトルづけや、フレームセットでのnoframesの記述によって、音声読み上げソフトでも迷わずに利用できるようにする必要があります。

フレームセットページのnoframes中で、各フレームへの分かりやすいリンクを用意することが効果的です。

(noframes記述例を挙げる)

検討3 フレームを使用するページでは、各フレームのタイトルと、フレームセットのnoframesをどう記述するかを検討しましょう

検討1の例にならって、作成するページのフレーム構成図を作り、各フレームのタイトルと、フレームセットのnoframesの記述内容を決めてください。(ページ毎に検討が必要です)

参考になるソリューションリスト項目:

noframesの記述内容:

フレーム1のタイトル:

フレーム2のタイトル:

フレーム3のタイトル:

フレーム構成図

5 - a ページのタイトル、見出しの提供

- < 必須 > 各ページが識別できる、明確なページタイトルをつける
- < 必須 > 見出しや段落をきちんと指定する

検討1 ページタイトルと大見出し(H1)のつけ方を検討しましょう。

ページタイトルは、ブラウザのウィンドウ枠などに表示されるので、これだけで各ページが区別できるようにつける必要があります。また、ページ全体の「大見出し」も決める必要があります。大見出しの内容はページタイトルと同じでもよく、また、ページタイトルより詳しい別の見出しをつけてもよいでしょう。

例1) ページタイトルと大見出しが異なる例



ページタイトルと大見出しの関係をどのようにするか、検討してください。

- ☐ 大見出しは、ページタイトルと同じにする
 - ☐ 大見出しは、ページタイトルとは別の内容にする
- 大見出しのつけ方のルール、または例を考えてください

検討2 ページ内での小見出し(H2～H6)の使い方を検討しましょう

各ページ内の記事や段落ごとに適切な小見出しをつけると、音声読み上げソフトでは小見出しだけを読むなど障害者にとって便利な使い方ができるようになります。小見出しには複数のレベル(階層)を設定でき、CSSデザインでは見出しの階層毎に表示デザインが決められるので、見出しのレベルを適切に分けて指定すると見やすく分かりやすいページになります。

例2) 小見出しの指定の例



作成するページの原稿例を考えて、小見出を何階層まで用意する必要があるか、検討してください。

第1階層 (H1 = ページ全体を示す大見出し)

- | | |
|--|--------|
| ☐ 第2階層 (H2) 位置づけ: | 使い方の例: |
| ☐ 第3階層 (H3) 位置づけ: | 使い方の例: |
| ☐ 第4階層 (H4) 位置づけ: | 使い方の例: |
| ☐ 第5階層 (H5) 位置づけ: | 使い方の例: |
| ☐ 第6階層 (H6) 位置づけ: | 使い方の例: |

参考になるソリューションリスト項目:

6 - a ページの配色の検討

高齢者や色が区別できない利用者でも利用できる配色やコントラストを採用する

検討1 避けるべき配色について理解しましょう

いわゆる色弱の人だけでなく、高齢者等でも識別しにくい色の組み合わせがあります。ページの背景色と表示する文字やマーク、画像などの色の組み合わせを決める際には、色の区別がつきにくい利用者が困らないよう配慮する必要があります。

避けたい色の組み合わせの例

緑と赤 日本人に最も多い、第1色弱の人が識別しにくい配色です。
 黒と青 高齢者では青が暗く見える傾向があるため、区別しにくくなります。
 (他の例も挙げる)

上記の組み合わせでも、十分なコントラストの差があれば、色の区別がつかなくても文字等の判読はできます。

(例: 背景が淡い明るい緑で、文字が濃い(暗い)赤の場合)

検討2 ページ内で使用する色の組み合わせを検討しましょう

上記の組み合わせに注意しながら、制作するページの各要素について、背景色と文字色の組み合わせを検討してください。

共通メニュー	背景色	(明 / 暗)	文字色	(明 / 暗)
コーナメニュー	背景色	(明 / 暗)	文字色	(明 / 暗)
大見出し(H1)	背景色	(明 / 暗)	文字色	(明 / 暗)
小見出し(H2)	背景色	(明 / 暗)	文字色	(明 / 暗)
小見出し(H3)	背景色	(明 / 暗)	文字色	(明 / 暗)
小見出し(H4)	背景色	(明 / 暗)	文字色	(明 / 暗)
小見出し(H5)	背景色	(明 / 暗)	文字色	(明 / 暗)
小見出し(H6)	背景色	(明 / 暗)	文字色	(明 / 暗)
見出し以外の文章	背景色	(明 / 暗)	文字色	(明 / 暗)

参考になるソリューションリスト項目:

6 - b 色による表現の検討

< 必須 > 色で情報を表現する場合、色以外の方法でもその情報が伝わるようにする

検討1 ホームページ内に、色による表現や指示を行なう箇所があるかどうか、検討しましょう。

色の違いによって表現や指示を行なうと、色の区別のつかない人にはその意味が伝わりません。色で表現や指示をする場合には、色以外の方法でもその情報が伝わるようにする必要があります。

次の例を参考にして、制作するホームページの中に、色の違いによる表現や指示を行なうところがあれば、書き出してください。

色の違いによる表現の例

天気や気温の分布を地図上の色の違いで表現

鉄道の時刻表で、特急・急行・各駅停車の違いを、文字色の違いで表現

施設や座席の空き状況案内で、「空きあり」「残りわずか」「満席」などをカレンダーの塗りつぶし色の違いで表現

対象ページ1:

対象ページ2:

対象ページ3:

対象ページ4:

対象ページ5:

検討2 それぞれの箇所について、色以外でも情報が伝わる工夫を検討しましょう。

色の違いで情報を表現する場合には、色以外の手段でもその情報が伝わるようにする必要があります。検討1で書き出した箇所について、どのような方法で情報を伝えるかを検討してください。

色の違いとその他の方法による表現の併用例

天気や気温の分布を地図上の色と、塗りつぶしパターンの違いで表現

鉄道の時刻表で、特急・急行・各駅停車の違いを文字色の違いと、等の記号で表現

施設の空き状況案内で、「空きあり」「残りわずか」「満席」などをカレンダーの色の違いと文字で表現

対象ページ1の対応:

対象ページ2の対応:

対象ページ3の対応:

対象ページ4の対応:

対象ページ5の対応:

参考になるソリューションリスト項目:

7 - a 見やすい文字の指定

< 必須 > 文字のサイズは固定せず、利用者が変更できるようにする
標準で表示する文字のサイズやフォントは高齢者が読みやすいものにする

検討1 文字サイズの指定方法について検討しましょう

文字サイズは、HTMLの中でfontタグで指定するのが一般的ですが、これからはfontタグではなく、CSSの中で指定する方法が推奨されています。CSSで指定した方が、HTMLがシンプルで分かりやすいものになります。

このサイトでは、どの方法で文字サイズを指定するかを選択してください。

- 推奨
- ☐ CSSの中で文字サイズを指定する
 - ☐ HTMLの中でfontタグを使って文字サイズを指定する

検討2 標準の文字サイズについて検討しましょう

CSSで文字サイズ指定する場合も、HTMLで指定する場合も、「相対指定」で指定する必要があります。標準となる文字サイズは、高齢者が読みやすいよう、小さなサイズを指定しないようにしましょう。

相対的な文字サイズ指定方法：

CSSで指定する場合：x-small、small、medium、large、x-largeの中から選択します。

高齢者でも見やすくするには、medium、large、x-largeから選択しましょう。

HTMLで指定する場合：basefont要素で、1～7の数字で指定します。

高齢者でも見やすくするには、3以上の値を指定しましょう。

上記の例を参考にして、このサイトでの標準文字サイズを決めてください。

標準文字サイズは：_____

検討3 標準文字サイズを基準に、ページ内の様々な要素の文字サイズを検討しましょう

制作するページの各要素について、相対指定で文字サイズを指定してください。

相対的な文字サイズ指定方法：

CSSで指定する場合：「%」または「em」で指定します。

「2em」は標準文字サイズの2倍、「3em」は標準文字サイズの3倍の大きさ

HTMLで指定する場合：標準文字サイズからの差を-1、+1、+2のように指定します。

標準文字サイズとの合計値が1～7の間に収まるように指定してください。

共通メニューの文字サイズ	_____
コーナーメニューの文字サイズ	_____
大見出し(H1)の文字サイズ	_____
小見出し(H2)の文字サイズ	_____
小見出し(H3)の文字サイズ	_____
小見出し(H4)の文字サイズ	_____
小見出し(H5)の文字サイズ	_____
小見出し(H6)の文字サイズ	_____

8 - a 機種依存文字への対処

< 必須 > 標準コードにない「機種依存文字」は使わない

検討1 JIS標準コードにない漢字の表現方法について検討しましょう

人名や地名などでは、JIS標準コードにない漢字がしばしば必要になります。これらの文字をどのように表現するかを検討してください。

一般的には、次のような対処が考えられます。このサイトではどの方法をとるかを選択してください。

- | | |
|------------------|---|
| 1
つ
選
択 | ☐ 漢字は使わず、ひらがな、カタカナで記述する |
| | ☐ 類似の別の漢字で代用する（どの字をどれで代用するかは定めておく） |
| | ☐ 漢字の形を画像で表し、読みを代替テキスト(Alt)で指定する |
| | ☐ その他の方法で表現する（具体的に： _____ ） |

検討2 アルファベットの組み合わせでできている単位記号の表現方法について検討しましょう

cm、cc、kgなどの単位記号は、アルファベットの組み合わせで表現できますが、その場合、音声読み上げソフトで正しく読み上げられないことがあります。このサイトではどのように表現するかを選択してください。

- | | |
|------------------|--|
| 1
つ
選
択 | ☐ 記号の読みをカタカナで記述する（「センチメートル」など） |
| | ☐ アルファベットの組み合わせで記述する（音声読み上げソフトでは正しく発音されない場合があります） |
| | ☐ 単位記号の形を画像で表し、読みを代替テキスト(Alt)で指定する |
| | ☐ その他の方法で表現する（具体的に： _____ ） |

検討3 ローマ数字の表現方法について検討しましょう

ローマ数字は機種依存文字なので、他の方法で記述する必要があります。このサイトではどのように表現するかを選択してください。

- | | |
|------------------|--|
| 1
つ
選
択 | ☐ ローマ数字は使わず、算用数字(1, 2, 3など)で記述する |
| | ☐ アルファベットの組み合わせで表現する（音声読み上げソフトでは正しく発音されない場合があります） |
| | ☐ ローマ数字の形を画像で表し、読みを代替テキスト(Alt)で指定する |
| | ☐ その他の方法で表現する（具体的に： _____ ） |

検討4 その他の特殊文字の表現方法について検討しましょう

丸数字、(株)などの記号は機種依存文字なので、他の方法で記述する必要があります。このサイトではどのように表現するかを選択してください。

- | |
|---|
| ☐ 丸数字は使わず、算用数字(1, 2, 3など)で記述する |
| ☐ 「(」「株)」のように、標準コードの文字の組み合わせで表現する |
| ☐ 丸数字や記号の形を画像で表し、読みを代替テキスト(Alt)で指定する |
| ☐ その他の方法で表現する（具体的に： _____ ） |

8 - b 難しい言葉や外来語、略語の表記

一般的でない外来語や専門用語、略語の使用はできるだけ避ける

やむを得ず難しい表現を使う場合は、説明やよみがなをつける等の配慮をする

< 必須 > 単語の途中に空白や改行コードを入れない

検討1 共通メニューなど重要な要素で用いる言葉を検討しましょう。

共通メニューなど、内容の理解や基本操作に関わる表記に難しい言葉や外来語、カタカナ語は使うと、高齢者等にとって理解しにくく使いにくいページになります。

以下の例を参考にして、基本メニューで使う項目名を検討してください。

望ましくない言葉の例： インフォメーション、Contact US、Top、サイトマップ、

分かりやすい表記の例：新着情報、基本情報、連絡先、先頭に戻る、ページ一覧

共通基本メニューの項目：

コーナメニューの項目：

検討2 読みの難しい言葉の「よみがな」のつけかたを検討しましょう

HTMLではバージョンによってはルビを振る機能が用意されていませんが、読みの難しい難語や地名、人名については、何らかの方法で正確な読みの情報を提供するようにしましょう。

このサイトでのよみがなのつけ方を選択してください。

1
つ
選
択

- ☐ 単語の後ろに、カッコでくくってよみがなを示す（音声読み上げソフトでは、二重に読み上げられます）
- ☐ XHTMLのruby要素を使ってよみがなを示す（XHTMLを使っている場合のみ）
- ☐ よみがなの説明ページや注を用意し、該当する単語の部分からリンクを張る
- ☐ その他の方法で表現する（具体的に： _____ ）

検討3 専門用語や略語の意味の示し方を検討しましょう

一般の人にはわかりにくい専門用語や、アルファベットの組み合わせになる略語などについては、何らかの方法でその意味や説明を示すようにしましょう。

このサイトでの意味や説明の示し方を選択してください。

1
つ
選
択

- ☐ 単語の後ろに、カッコでくくって正式名称や説明を示す
- ☐ 別ページや注で正式名称や説明を示し、該当する単語の部分からリンクを張る
- ☐ その他の方法で表現する（具体的に： _____ ）

検討4 日付や時刻などの表現について検討しましょう

日付や時刻、分数などは、一般に用いられている表現では音声読み上げソフトが正しく発音しない場合があります。音声読み上げソフトでも分かりやすく読み上げるような配慮をしましょう。

このサイトで配慮する表現について選択してください。

- ☐ 日付は「2005/3/31」ではなく、「2005年3月31日」のように記述する
- ☐ 時刻は「1:30」ではなく、「1時30分」のように記述する
- ☐ 分数は「1 / 4」ではなく、「4分の1」のように記述する
- ☐ その他注意する表現（具体的に： _____ ）

参考になるソリューションリスト項目：

9 - a 操作部分の分かりやすさ

< 必須 > リンクのついたテキストは、リンクの部分が明確に区別できるようにする → 検討1
画像やマークにリンクをつける時は、リンクがあることが見て分かるようにする → 検討2

検討1 リンク付テキストの書式を検討しましょう

リンク付テキストは、リンクのないテキストと明確に区別できる書式になっている必要があります。一般的なブラウザでは、リンク付テキストは下線つきで、文字色も変えて表示されます。

このサイトではリンク付テキストをどのように表現するかを検討し、選択してください。

- 推奨
- ☐ 下線をつける（標準の状態）
 - ☐ 文字色を変えて表示する（標準の状態）
 - ☐ 太字で表示する
 - ☐ 斜体文字で表示する
 - ☐ その他の方法で表現する（具体的に：_____）

検討2 画像等に割り当てたリンクや操作の表示方法を検討しましょう

写真やイラスト、マークなどにリンクや操作が設定されていても、利用者にとって分かりにくいことがあります。そこが操作可能であることが明確に分かるように工夫しましょう。

画像にリンクや操作を設定する場合、どのように表示するかを検討し、選択してください。

- 推奨
- ☐ 画像に枠線をつける
 - ☐ 割り当てた機能やリンク先を示す言葉を代替テキスト(Alt)につける
 - ☐ 割り当てた機能やリンク先を示す言葉を画像の脇に表示する（例：クリックすると●●へジャンプします）
 - ☐ マウスポインタやフォーカスが当たると画像の色が変わるようにする
 - ☐ その他の方法で表現する（具体的に：_____）

参考になるソリューションリスト項目：

11 - a 画像等の代替テキストの提供

< 必須 > 画像やプログラムには適切な代替テキストを用意する

検討1 ホームページの中に複雑な内容の画像があるかどうかを検討しましょう。

JISでは画像には必ず代替テキストをつけることを求めています。内容をテキストで表現するのが難しい画像もあります。

制作するページの中に、重要な情報を表していて、その内容が複雑で簡単に説明できない画像（例えば地図やグラフなど）がないか、洗い出してください。

以下に該当する画像を使う場合は、チェックしてください。

- ☐ 地図（道順を示す図など） → 検討2
- ☐ 見取り図（建物や施設の配置を示す図など） → 検討2
- ☐ 写真やイラスト（重要な内容を表しているもの） → 検討3
- ☐ グラフ（各種のデータや、その推移を表しているもの） → 検討4
- ☐ その他複雑な画像（具体的に： _____)

検討2 地図、見取り図の代替テキストのつけ方を検討しましょう。

地図や見取り図の内容を示す代替テキストをどのように提供するかを検討し、選択してください。

- ☐ Alt属性の中に道順や配置の説明文を入れる
- ☐ Altの内容は「●●の地図」など簡単な内容にする
 - ☐ 画像の近くに、道順や配置を説明する文章を表示する
 - ☐ 別ページに画像の説明文を置き、画像から説明ページへのリンクを張る
 - ☐ 画像の近くに「説明へのリンク」等の言葉を置き、説明ページへリンクを張る
- ☐ その他の方法で表現する（具体的に： _____)

検討3 重要な写真、イラストの代替テキストのつけ方を検討しましょう。

内容の説明が必要な写真、イラストの代替テキストをどのように提供するかを検討し、選択してください。

- ☐ Alt属性の中に必要な説明文を入れる
- ☐ Altの内容は「●●の写真」など簡単な内容にする
 - ☐ 画像の近くに、必要な内容を説明する文章を表示する
 - ☐ 別ページに画像の説明文を置き、画像から説明ページへのリンクを張る
 - ☐ 画像の近くに「説明へのリンク」等の言葉を置き、説明ページへリンクを張る
- ☐ その他の方法で表現する（具体的に： _____)

検討4 グラフの代替テキストのつけ方を検討しましょう。

グラフの代替テキストをどのように提供するかを検討し、選択してください。

- ☐ Alt属性の中に必要な説明文を入れる
- ☐ Altの内容は「●●のグラフ」など簡単な内容にする
 - ☐ 画像の近くに、グラフの内容を示す数表を表示する
 - ☐ 別ページにグラフの内容を示す数表を置き、画像から数表ページへのリンクを張る
 - ☐ 画像の近くに「数表へのリンク」等の言葉を置き、数表ページへリンクを張る
- ☐ その他の方法で表現する（具体的に： _____)

参考になるソリューションリスト項目：

12 - a PDFによる情報提供の検討

PDFを使用するが、全盲の利用者の利用に問題が生じないように配慮する

検討1 PDFで提供する資料を洗い出しましょう。

PDFは簡単に、資料の正確な印刷イメージを提供できますが、閲覧に専用ソフトが必要な上、適切な配慮をしないと音声読み上げソフトで正しく読み上げられない等の問題が発生します。PDFによる情報の提供は、どうしても必要な場合にとどめましょう。

このサイトでPDFで提供したい資料を洗い出し、PDFによる提供がどうしても必要かどうか検討してください。

必須のPDFによる提供が

- | | | |
|--------------------------|--------|--|
| ☐ | 提供資料名: | |
| ☐ | 提供資料名: | |
| ☐ | 提供資料名: | |
| ☐ | 提供資料名: | |
| ☐ | 提供資料名: | |
| ☐ | 提供資料名: | |

検討2 アクセシビリティに配慮したPDFの提供方法を検討しましょう。

PDFで情報や各種様式などを提供する場合、その内容が音声読み上げソフトなどで正しく把握できるよう、ファイルの作り方に配慮する必要があります。

このサイトでPDFを提供する場合、どのような配慮をするかを検討し、選択してください。

- | | | |
|----|--------------------------|--|
| 必須 | ☐ | スキャナでとった全面画像の文書をPDFにしない |
| | ☐ | 原稿となる文書を作成する際に、見出し設定をきちんと行なう |
| | ☐ | PDFの文書中の画像には代替テキストを設定する |
| | ☐ | タグ付きPDFで提供する |
| 必須 | ☐ | PDFを作成する際に、文書のセキュリティ設定でアクセシビリティを有効に設定する |
| 必須 | ☐ | PDFを呼び出すリンクには、リンク先がPDFであることと、ファイルのデータ量を明示する |
| | ☐ | PDFへのリンクがあるページには、最新のPDF閲覧ソフトのダウンロードページへのリンクを用意する |
| | ☐ | その他の配慮を行なう（具体的に: _____） |

検討3 PDF以外のファイル形式での情報提供の検討

PDFで情報や各種様式などを提供する場合、他のファイル形式でも同じ情報や様式を提供すれば、簡単に利用できるユーザーが増えます。

このサイトでPDFを提供する場合、他の形式でも同じ情報を提供するかどうか検討し、採用する提供方法を選択してください。

- | | |
|--------------------------|--|
| ☐ | 同様の内容のテキストファイル(文字部分のみ)を提供する |
| ☐ | MSワード、エクセル、パワーポイント等、PDFの原稿となる電子ファイルを提供する |
| ☐ | 同様の内容のHTMLページを提供する |
| ☐ | その他の方法で提供する（具体的に: _____） |

参考になるソリューションリスト項目:

13 - a Flashによる表現の検討

Flashを使用するが、全盲あるいは肢体不自由の利用者の利用に問題が生じないように配慮する

検討1 Flashを使用するページを洗い出しましょう。

Flashは動きのある表現で、視覚的に分かりやすく情報を提供できますが、障害者にとっては内容が把握しにくかったり、Flashコンテンツ内の操作ができない等の問題が発生します。Flashの使用はどうしても必要な場合にとどめましょう。

このサイトでFlashを使用したい箇所を洗い出し、Flashによる表現がどうしても必要かどうか検討してください。

Flash 必須 の ク の に よ ち る エ 提 供	☐	ページタイトル:	Flashで表現するもの:
	☐	ページタイトル:	Flashで表現するもの:
	☐	ページタイトル:	Flashで表現するもの:
	☐	ページタイトル:	Flashで表現するもの:
	☐	ページタイトル:	Flashで表現するもの:
	☐	ページタイトル:	Flashで表現するもの:

検討2 Flashを用いる際の配慮を検討しましょう。

Flashは動きのある表現で、視覚的に分かりやすく情報を提供できますが、障害者にとっては内容が把握しにくかったり、Flashコンテンツ内の操作ができない等の問題が発生します。Flashの使用はどうしても必要な場合にとどめ、使う場合には十分な配慮をすることが必要です。

このサイトでFlashを用いる場合、どのような配慮をするかを検討し、選択してください。

- | | | |
|----|--------------------------|---|
| 必須 | ☐ | ページ全体をFlashで作るような構成にしない（基本メニュー等の操作部分はHTMLで作る） |
| | ☐ | Flashコンテンツ内に他のページへのリンクを設けない |
| | ☐ | Flashコンテンツ内のリンクと同等のリンクを同じページのHTMLでも提供する |
| 必須 | ☐ | Flashコンテンツの内容を説明する代替テキストを提供する |
| | ☐ | 音声読み上げソフトの妨げとなるような音声をFlashで自動再生しない |
| | ☐ | Flashコンテンツの動きを止められる操作ボタンやキーボード操作を提供する |
| | ☐ | Flashを用いるページでは、最新版プラグインのダウンロードページへのリンクを用意する |
| | ☐ | その他の配慮を行なう（具体的に: _____） |

検討3 Flash以外の形式での情報提供の検討

Flashを用いるページを提供する場合、Flashが利用できない利用者や環境に配慮して、同等の内容を提供する別方式のページを提供することが考えられます。（ただし、JISはこの方法は推奨していません）

このサイトでFlashを用いる場合、Flashを使わない別ページを提供するかどうか検討してください。

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| ☐ | Flashを使わない「HTML版」ページを提供する |
| ☐ | その他の方法で提供する（具体的に: _____） |

参考になるソリューションリスト項目:

14 - a JavaScriptによる表現の検討

JavaScriptを使用するが、全盲あるいは肢体不自由の利用者の利用に問題が生じないように配慮する

検討1 マウス操作と関連してJavaScriptを使う箇所を洗い出しましょう。

JavaScriptは状況によって変化するダイナミックな情報表現を実現できますが、適切な配慮をしないと、視覚障害者や肢体不自由者が利用できないつくりになる場合があります。

このサイトで、次のような目的でJavaScriptを使う箇所があれば、書き出してください。

JavaScriptで提供する箇所があればチェック

- | | |
|--------------------------|--|
| ☐ | 基本メニューで、マウスポインタを当てると色や表現が変わるようにする |
| ☐ | 基本メニューで、マウスポインタを当てるとサブメニューが表示されるようにする |
| ☐ | 写真やイラスト等の画像で、マウスポインタを当てると色や内容が変わるようにする |
| ☐ | プルダウンメニューを提供する |
| ☐ | |
| ☐ | |

検討2 JavaScriptを用いる際の配慮を検討しましょう。

JavaScriptでマウス操作やキーボード操作に反応する機能や表現を実現する場合、マウスやキーボードが使えない人でも同等の操作ができるように配慮する必要があります。

このサイトでJavaScriptを用いる場合、どのような配慮をするかを検討し、選択してください。

- ☐ マウスポインタを当てると変化するメニューや画像は、キーボード操作でフォーカスが当たったときにも同じ状態になるようにする
- ☐ マウスポインタを当てると表示されるサブメニューは、キーボード操作でも表示し選択できるようにする
- ☐ プルダウンメニューは、すべての項目をキーボード操作でも選択できるようにする
- ☐ プルダウンメニューは、項目選択した後「実行」ボタンを選択した時に実行されるようにする
- ☐ その他の配慮を行なう（具体的に：_____）

参考になるソリューションリスト項目：

15 - a 表組みの使い方

表組みは使用するが、視覚障害者が内容を把握できる配慮をする

検討1 どのような用途で表組みを使うかを検討しましょう。

表組みは視覚的に分かりやすく情報を整理して提示できますが、視覚障害者にとっては非常に分かりにくい情報の出し方になります。表組みを用いる時は、できるだけ単純な作りにして、さらに音声読み上げソフトで理解しやすいようにする配慮が必要です。

このサイトで、表組を用いて提供したい情報を検討し、書き出してください。

表組みで提供できる箇所があれば	☐	カレンダーの提供
	☐	料金表の提供
	☐	各種データの数表の提供（グラフのデータを表で提供する場合など）
	☐	
	☐	

検討2 表組みを用いる際の配慮を検討しましょう。

音声読み上げソフトで意味が理解しやすい表組みを作るにはHTMLの知識が必要になります。エクセルで作った表を用いる場合にも、最低限の配慮として、セル結合をしない配慮が必要です。

このサイトで表組みを用いる場合、どのような配慮をするかを検討し、選択してください。

- | | | |
|----|--------------------------|--|
| 必須 | ☐ | セル結合を用いない（同じ内容のセルを結合せず、セルごとに同じ内容を記述する） |
| 必須 | ☐ | 表頭・表側とデータセルをきちんと区別して表の形を指定する |
| | ☐ | HTMLで表頭・表側とデータセルの関係づけを行なう |
| | ☐ | その他の配慮を行なう（具体的に： _____ ） |

参考になるソリューションリスト項目：

16 - a 入力フォームでの配慮

利用者に入力操作を求める場合は、視覚障害者や肢体不自由の利用者でも入力がしやすいよう配慮する → 検討1、2

入力情報の確定前に利用者が確認できるようにする → 検討3

入力操作が難しい人のために別の手段を用意する → 検討4

検討1 どのような形で利用者に入力を求めるかを検討しましょう。

このサイトで、利用者に入力操作(リンクやメニューの選択は除く)を求める箇所を洗い出し、どのような入力操作が求められるかを整理してください。

該当箇所があれば	☐	入力フォームへの文字、文章入力
	☐	ラジオボタン、チェックボックスによる項目選択
	☐	プルダウンメニュー方式での項目選択
	☐	上記の要素が複数組み合わせられた申し込み、申請、登録フォーム
	☐	上記の要素が複数組み合わせられた問い合わせフォーム
	☐	その他の入力:

検討2 入力に時間がかかる利用者への配慮を検討しましょう。

視覚障害者や肢体不自由者、パソコン操作に不慣れな人では、入力操作に多くの時間がかかることがあります。入力操作を分かりやすくする配慮や、時間制限をできるだけ設けない配慮が必要です。

このサイトで入力を求める場合、どのような配慮をするかを検討し、選択してください。

- 必須 ☐ 入力する文字種を指定する場合は明確に行なう（ひらがな、カタカナ、全角、半角）
- ☐ 入力欄とその項目名を関係づける（ラジオボタンやチェックボックスを選択しやすくなります）
- ☐ 入力の制限時間を設けない
- ☐ 入力の制限時間を利用者が延長できるようにする
- ☐ その他の配慮を行なう（具体的に: _____）

検討3 入力情報を確認する方法について検討しましょう。

入力操作が正確にできない利用者や、操作に不慣れな利用者では、間違い入力も多くなるため、入力した情報を利用者が確認してから送信できるように配慮する必要があります。

このサイトで入力を求める場合、どのような配慮をするかを検討し、選択してください。

- 必須 ☐ 入力欄とは別に「送信」ボタンを用意する
- 必須 ☐ 複数の入力欄のある入力フォームでは、入力確認ページを表示し、確認後送信する
- ☐ その他の配慮を行なう（具体的に: _____）

検討4 ホームページ以外での代替手段を検討しましょう。

ホームページでの入力がうまくできない人のために、どのような代替手段を提供するかを検討し選択してください。

- 必須 ☐ 電子メールによる連絡を受け付ける
- 必須 ☐ 電話、ファックスによる連絡を受け付ける
- ☐ その他の受付方法を用意する（具体的に: _____）

17 - a 音による情報提供の検討

音声情報を使うが、音声聞き取れなくても内容が伝わるように → 検討2
する

音声情報を使うが、音声読み上げソフトの利用に支障がないように配慮する → 検討3

再生や停止などの操作について、視覚障害者や肢体不自由者が操作できるよう配慮する → 検討3

検討1 どのような音声情報を提供するかを検討しましょう。

効果音や音声による情報提供は分かりやすく効果的ですが、聴覚障害者にはその情報が伝わらないので配慮が必要です。

このサイトで、音声による情報提供を行なう箇所を検討し、書き出してください。

音声
が
あ
れ
ば
チ
ェ
ッ
ク
す
る
箇
所

- ☐ 利用者の操作時に効果音を鳴らす
- ☐ エラーの表示や警告表示の際に効果音を鳴らす
- ☐ BGMや背景音を流す
- ☐ 録音やビデオの音声を流す
- ☐ 読み上げ音声で情報提供やガイダンスを行なう
- ☐ その他(具体的に:)

検討2 音声聞きとれない利用者への配慮を検討しましょう。

聴覚障害者や、音声再生機能のない端末の利用者は、音声で提供される情報を受け取れません。音声で情報を提供する場合、必ず他の方法でも同等の情報を提供する必要があります。

このサイトで音声情報を提供する場合、どのような配慮をするかを検討し、選択してください。

- ☐ 効果音を鳴らす時は、アニメーションや色の変化などでそのことが分かるようにする
- ☐ BGMや背景音が流れている時は、そのことを画面の分かりやすい場所に表示する
- ☐ 録音音声や音声ガイダンスを提供する時は、同時に字幕でその内容を提供する
- ☐ 録音音声や音声ガイダンスと同じ内容のテキストを別に提供する
- ☐ その他の配慮を行なう(具体的に:)

検討3 音声情報の制御について検討しましょう。

音声読み上げソフトの利用者は、ホームページで提供する音声情報と読み上げソフトの音が重なると正確に情報を得られなくなります。音声情報は、利用者が再生や停止をコントロールできるようにしましょう。

このサイトで音声情報を提供する場合、どのような配慮をするかを検討し、選択してください。

- 必須 ☐ ページを表示した時、自動的に音声情報が再生されないようにする
- ☐ 効果音を鳴らさない設定を利用者が簡単にできるようにする
- ☐ 録音音声や読み上げ音声は、再生・停止などの操作を利用者がいつでも行えるようにする
- 必須 ☐ 音声情報の操作は、マウスでもキーボードでも操作可能なくみにする
- ☐ その他の配慮を行なう(具体的に:)

18 - a ビデオやアニメーションなど動きのある表現による情報提供の検討

アニメーションやビデオを使用するが、代替テキストの提供など視覚障害者・聴覚障害者に配慮する

アニメーションやビデオを使用するが、再生や停止などの操作について視覚障害者や肢体不自由者が操作できるよう配慮する

< 必須 > 早い周期での点滅は行わない

検討1 どの方式での情報提供を行なうかを検討しましょう。

ビデオやアニメーション、文字スクロールによる情報提供は分かりやすく効果的ですが、視覚障害者にはその情報が伝わらないので配慮が必要です。

このサイトで、ビデオ、アニメーション等による情報提供を行なう箇所を検討し、書き出してください。

ここ が あ ら れ を ば 提 示 す る 箇 所	☐	音声のないビデオ映像を再生する
	☐	音声付のビデオ映像を再生する
	☐	音声のないアニメーションを再生する
	☐	音声付のアニメーションを再生する
	☐	文字をスクロールさせて表示する
	☐	その他(具体的に: _____)

検討2 ビデオ、アニメーション、文字スクロール提供時の配慮を検討しましょう。

音声読み上げソフトの利用者は、ホームページで提供する音声情報と読み上げソフトの音が重なると正確に情報を得られなくなります。音声情報は、利用者が再生や停止をコントロールできるようにしましょう。

このサイトで音声情報を提供する場合、どのような配慮をするかを検討し、選択してください。

- | | | |
|----|--------------------------|---------------------------------------|
| | ☐ | 音声付のビデオやアニメーションを再生する時は、字幕で音声の内容を提供する |
| | ☐ | 音声付のビデオやアニメーションでは、音声と同じ内容のテキストを別に提供する |
| 必須 | ☐ | 音声付のビデオやアニメーションは、自動再生しない |
| | ☐ | あまり速い画面変化やスクロールは行なわない |
| 必須 | ☐ | ビデオやアニメーション画面、あるいはページ全体を速い速度で点滅させない |
| | ☐ | 再生・停止などの操作を利用者がいつでも行なえるようにする |
| 必須 | ☐ | 再生・停止などの操作は、マウスでもキーボードでも操作可能なくみにする |
| | ☐ | その他の配慮を行なう(具体的に: _____) |